

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第33週 (8/13-8/19) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	16	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ	26	20	27	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/13-8/19	8/6-8/12	7/30-8/5	7/23-7/29	8/6-8/12
			33週	32週	31週	30週	32週
小児科	RSウイルス感染症	○	11 0.65	7 0.44	15 0.83	21 1.17	154 1.24
	咽頭結膜熱		3 0.18	8 0.50	14 0.78	23 1.28	90 0.73
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		9 0.53	13 0.81	30 1.67	42 2.33	151 1.22
	感染性胃腸炎		60 3.53	33 2.06	68 3.78	88 4.89	278 2.24
	水痘		2 0.12	0 0.00	6 0.33	1 0.06	29 0.23
	手足口病		14 0.82	15 0.94	28 1.56	20 1.11	136 1.10
	伝染性紅斑		1 0.06	2 0.13	2 0.11	1 0.06	33 0.27
	突発性発しん		6 0.35	10 0.63	13 0.72	6 0.33	58 0.47
	ヘルパンギーナ		28 1.65	47 2.94	79 4.39	75 4.17	256 2.06
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	2 0.11	2 0.11	9 0.07
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	1 0.04	0 0.00	1 0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	6 1.50	3 0.60	6 1.20	23 0.72
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	20歳代	抗体の検出	風しん	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第33週は、結核2件(113)、梅毒1件(16)、百日咳5件(112)、風しん5件(19)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第33週のコメント

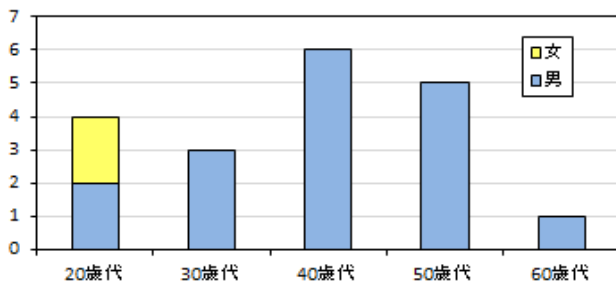
＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.65となった。過去10年の同時期と比べるととても多い。

■ トピック ■

<風しん>

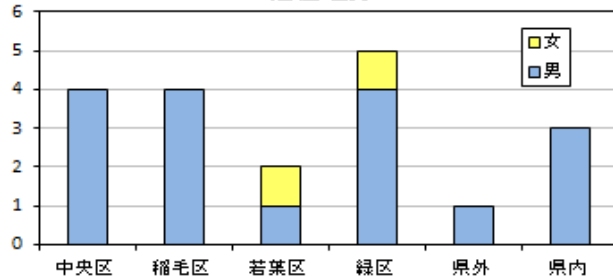
全国レベルの第32週は、流行のあった2014年のおよそ10分の1ですが、昨年の同時期と比べるとおよそ2.5倍となっています。都道府県別では千葉県、東京都、埼玉県の順で多く報告されており、千葉県を中心として関東地域で多く発生しています。千葉市では第33週に5件の発生届があり、2018年の千葉市内での発生届の累計は19件となりました。性別では男性が89.5%（17名）、女性が10.5%（2名）で、年齢階級別では40歳代（31.6%：6名）、50歳代（26.3%：5名）、20歳代（21.1%：4名）の順で多くなっています。居住地別では緑区（26.3%：5名）、中央区及び稲毛区（共に21.1%：4名）、若葉区（10.5%：2名）の順で多く報告されており、花見川区と美浜区からの報告はありません。また、発症日は大きく分けて7月18日から7月27日と8月3日から現在となっています。

（人数） 性別年齢別



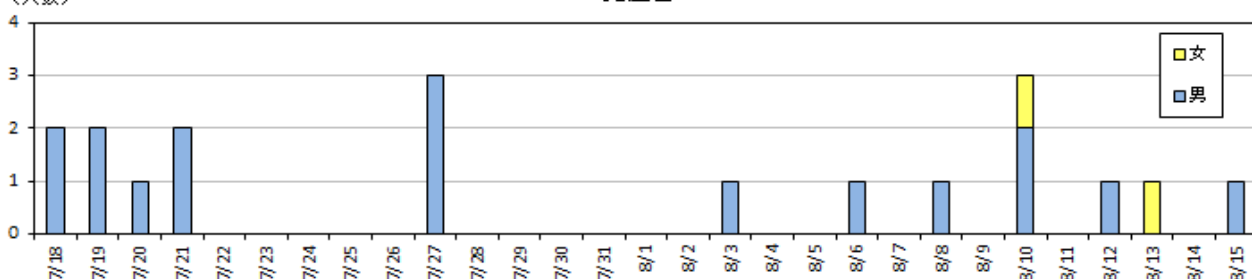
（人数）

居住地別



（人数）

発症日



<RSウイルス感染症>

全国レベルの第32週は、過去10年の同時期と比べると2017年に次いで多くなっています。都道府県別では宮崎県、和歌山県及び鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等のレベルとなっています。千葉市の第33週は前週より増加し0.65となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は緑区（1.25/定点）で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第33週までの累積報告数（n=333）によると、性別では男性が57.1%（190名）、女性が42.9%（143名）で、年齢階級別では1歳（39.6%：132名）、6～11か月（20.7%：69名）、2歳（17.7%：59名）の順で多くなっています。

